

世界はもはや終焉

私が地球から来たというご挨拶

私は愛と憎悪の世界から来た
そこは運命の渦が逃避し
生のための食物は死に絶え
聞こえない贈り物が贈られる
私は分断された橋の世界から来た
そこは河川が化学物質の潜んでいる
ただの流れに過ぎない世界
私は空が公害のために利用される道具
に過ぎない世界から来た
そこは監獄が唯一の解決になる
建設は殺人であり
若さは聞こえない声である世界
私は王と大統領の世界から来た
そこは証拠には真の支配力のない世界
日が落ちるとともに冷たくなる魂の自由
私はもはや終焉の世界から来た

私は富と貧困・肥満と餓死の世界から来た
そこは子供たちが飢えている世界
そのとき他の子どもたちはご馳走を
切り分けている世界
私は銃やナイフのような玩具が
子どもの心を魅了する贈り物となる
世界から来た
そこはサンタクロースを信じるように
教えるが、
自分自身を信じるようには決して
教えてくれない世界
私はあなたを愛している

私は秩序と混乱の世界から来た
そこは国境を越えることが見つければ
狙撃されることを意味する世界
そこは殺し屋に見つからないことが安全で
ある世界
私は光を発するようになった
我々は皆仲良くできないのであろうか？
私は世界から来た
私はもはや終焉の世界から来た

何百万人もの方が行進し
200回もの夏さまざまなドラマーに向け
歌を歌った世界から私は来た
貧困と絶対多数の世界
少数派と優先者を結ぶ一本の線は
秘密クラブであり会員限定
そこは年寄りが孤独に死ぬ世界
私は壁が引き裂かれた世界から来た
墓穴が築かれる間に
地球温暖化は
最期の日が近いとの警告であった
しかし誰にも聞こえない
気づかぬうちに
ただ身につけているものでさえ
髪を変色させる毒となり
そして大気に穴をあける
それはオゾン層
私はもう演奏者にはなりたくない
人々が心配するのは点数のことだけ
私は世界から来た
私はもはや終焉の世界から来た

この歌詞は、様々な「予防と健康管理」に関するフレーズが、婉曲的に述べられている。

環境ホルモン 水質汚濁 大気汚染 貧富の差 世界平和 孤独死
地球温暖化 オゾン層

の八点について述べていこうと思う。

環境ホルモン

動物の生体内に取り込まれた場合に、本来その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因物質の総称である。環境中に存在するいくつかの化学物質が、悪性腫瘍を発癌させたり、生殖機能を奪ったり、体内のホルモン作用を攪乱する。環境ホルモンの多くは食物連鎖を通して生物濃縮され、障害が出現するまでに長年かかり、フィードバック機構がない。

野生生物への障害として、精巣萎縮、メス化による生殖異常が挙げられる。

水質汚濁

水は生物の生存にとって必要不可欠なものだが、人間活動によって水は汚染され、水の自浄作用をはるかに超えた人為的水質汚染は水質汚濁を引き起こし、人の健康や生活環境、水産業などに大きな影響をあたえる。水の生物学的作用に関与するのは主として好気性菌であり、水中溶存酸素を消費して有機物を酸化分解し、水質を回復させる。河川の流量に比して汚染物質が多いと水中酸素を消費し尽くし、無酸素の状態になり自浄能力を失う。嫌気の状態になった河川は、メタンガス、炭酸ガス、硫化水素ガス、アンモニアガスなどが発生し、黒色化し、一般の動植物は死滅する。

水質汚濁の主な原因は化学工業、紙・パルプ製造工業、鉄剛、繊維、食料品製造工場などからの排水であり、水俣病やイタイイタイ病を引き起こしている。

大気汚染

戸外の大気中に人工的にもたらされた汚染物質が存在し、その量や濃度や持続時間が住民のかなり多数の人たちに不快感や広範囲の公衆衛生上の危害を与え、人間や動植物の生活を妨害するようになっている状態である。

大気汚染物質には、汚染源から排出される一次汚染物質と、それらが大気中で種々な反応を起こして生成される二次汚染物質がある。一次汚染物質は、天然では火山粉塵、火山地や温泉地のガス、天然ガス、動植物の腐敗発酵ガスなどがあげられる。人為的なものはエネルギー産生による燃焼産物(CO₂, CO, SO_x, NO_x, CH₄類など)がある。二次汚染物質は、一次汚染物質が紫外線などによって受けた反応で生ずるオゾン、PAN、オキシダントがあげられる。

疾患としては、慢性気管支炎、気管支喘息、肺気腫、喘息性気管支炎がある。大気汚染の人体影響に関する疫学的研究は汚染物質の量とそれによる反応との関係が基本となっている。そして大気汚染による疾患のみならず、心・肺機能の低下を起こし、感覚刺激作用および精神心理的影響をあたえる。

飲酒・喫煙の害

煙草の煙には 4000 種を超す化学物質が含まれているが、中でももっとも強い生理作用を(血管収縮、脂質代謝阻害など)を示すのはニコチンであり、煙草の害の主役となっている。それに次いで重要なのは各臓器の酸素不足の原因となる一酸化炭素、刺激性の強いアクロレイン・ホルマリオン・アンモニア、発癌性の強いベンゾピレンなどの物質である。これらの有害物質濃度は、一般に副流煙中のほうが主流煙中より高い。喫煙により起こり得る疾患としては、肺癌、閉塞性肺疾患、虚血性心疾患、動脈硬化、胎児の発育障害、胃・十二指腸潰瘍などがある。

適量の飲酒(1日30ml・日本酒1合強、またはビール大瓶1本強)は、精神的ストレスの解消に役立つほか、動脈硬化を予防するHDLコレステロールを増加させるといわれている。大量飲酒は健康に様々な害を及ぼす。一度に多量のアルコールを飲めば、急性アルコール中毒を起こし生命の危険をもたらすこともある。また、泥酔による転倒や火の不始末、自制心喪失によるけんか、飲酒運転による事故など、思わぬケガを誘発する事が少なくない。慢性影響として、アルコール依存症をはじめ、神経系・肝臓・膵臓・心臓などの障害、高血圧などがある。臓器により、また男女により若干の差はあるが、一般に1日80ml以上のアルコールを十年以上続けて飲むことにより、これらの障害が出現するといわれている。また、大量飲酒は喫煙の害を増強するとの報告もある。

貧富の差

「プライマリ・ヘルス・ケア」

1975年 WHO の執行理事会は開発途上国の多くの人々が保健サービスの恩恵を受けていないとして、効率よい包括的保健サービスを拡充する必要があることを強調し、すべての国民のために予防から治療、健康増進、リハビリテーションにまでいたる包括的保健サービス体系を充実かつ優先させる事に重点をおいた。

孤独死

核家族化などにより、お年寄りが誰にも看取られずに病院で亡くなるケースや、一人暮らしで誰にも気づかれぬまま自宅で亡くなるケースが増えている。特に過疎地域に多く、家族の絆が再認識されている。

地球温暖化

地球に流れ込む日射エネルギーと宇宙に放散する熱放射のエネルギーにより決まる。日射エネルギーは主に地表で吸収され、地表からは赤外線が放出されるが、大気中の“温室効果ガス”が、この赤外線エネルギーを吸収し、一部の熱を下向きに放射することにより、地表はより高温になる。

温室効果ガスとしては、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、オゾン、フロンが代表的である。大部分は、燃焼や農業活動・経済活動から生ずるものである。現在、使用を禁止し、代替物を用いて影響を減少させる努力がされている。

地球の温暖化により北極・南極の氷の融解や海面の膨張による海面上昇や異常気象の頻発が懸念されている。健康影響としては、これまで以上に熱波が深刻になると考えられている。平均気温の上昇により、これまで温帯や寒帯であった地域でも、現在熱帯において流行しているマラリアなどの感染症も問題となる。

オゾン層破壊

オゾン層は地球の上空成層圏にあり、太陽の紫外線を受吸収し過剰の紫外線が地表に届くのを妨げている。1974年、初めて南極の上空でフロンなどの化学物質によって破壊され、減少していることが観察された。

オゾン層破壊の原因は、主としてフロンであり、その他の有機溶剤も原因と考えられている。オゾン層が破壊されるとそれまで吸収されていた有害な紫外線が地表に降り注ぐことになり、健康影響が懸念されている。上空のオゾンが1%減少すると、地表の紫外線量は2%増加する。紫外線の増加による影響としては、皮膚癌や、白内障の増加が予想されている。